

佐賀の果樹 6月号 今月の管理（病虫害防除）

梅雨時期は露地栽培の果樹にとって病害が発生しやすい時期です。降雨および園地の状況を把握して防除対策を徹底してください。また、収穫期を迎えているハウスミカンではアザミウマ類や果実腐敗対策を行きましょう。

<露地カンキツ>

○黒点病

枯れ枝や園内に放置された剪定枝は黒点病の伝染源になりますので、必ず除去して処分してください。また、園内に残った切り株は抜根するか、肥料袋などで全体を覆って病原菌の胞子が飛散するのを防いでください。

防除の際、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を単用で散布する場合は、薬剤散布後の累積降雨量が200～250mmまたは薬剤散布1か月後を目安に再散布を行ってください。なお、本剤にマシン油を加えると残効が長くなり、次回の薬剤散布時期は累積降雨量350～400mmを目安にすることができます。ただし、散布後2～3日以内に降雨があると、薬剤が流れやすくなり、有効成分の付着量が少なくなる可能性があります。散布後の天気予報にも注意して散布計画を立ててください。マシン油乳剤の濃度は、ミカンハダニの発生が認められる場合は200倍、ミカンハダニの発生が認められない場合は400倍とします。防除時期の目安となる累積降雨量は、圃場内に簡易雨量計を設置して確認しましょう。

○かいよう病

カンキツかいよう病が問題となる園（ネーブル、いよかん、はるみ等の中晩柑、高糖系温州が植栽された園、幼木園、高接園、風当たりが強い園等）では、6月中旬にクレフノン200倍加用コサイド3000 2,000倍またはクレフノン200倍加用フジドーLフロアブル1,000倍を散布して下さい。

○ミカンサビダニ

葉上で密度が高まり、果実へ移動を始める時期となります。果実被害を防ぐため、6月上中旬の防除を徹底しましょう。チャノキイロアザミウマの防除も兼ねて、コテツフロアブル4,000倍、マッチ乳剤3,000倍、ハチハチフロアブル2,000倍等を散布します。ミカンサビダニのみを対象とする場合は、サンマイト水和剤3,000倍かダニカット乳剤20 1,000倍を散布します。なお、サンマイト水和剤にマシン油乳剤を加用すると効果が低下しますので、注意してください。

○チャノキイロアザミウマ

6月はチャノキイロアザミウマによるカンキツの前期被害を抑える上で重要な防除時期です。近年、気温上昇等の影響により、チャノキイロアザミウマの発生時期が早くなる傾向にあるため、前期被害の発生が問題となる園では6月初め頃の防除を徹底してください。

○カイガラムシ類

フジコナカイガラムシが発生している圃場では、チャノキイロアザミウマやゴマダラカミキリの防除も兼ねて、モスピラン SL 液剤 2,000 倍を散布して下さい。フジコナカイガラムシは、葉や果実の重なったところなどの薬剤のかかりにくいところに寄生することが多いので、むらが無いように丁寧に薬剤を散布しましょう。ヤノネカイガラムシやナシマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシが発生している場合は、スプラサイド乳剤 40 1,500 倍またはエルサン乳剤 1,000 倍等で対応します。

<ハウスミカン>

○アザミウマ類

まずは園内外の除草の徹底と、ハウス外周部のタイベックシート等の光反射資材の設置が重要です。まだの方は早急に取り組みましょう。

収穫時期が近い園で薬剤散布を行う場合は、薬剤の使用基準（収穫前日数）に注意して薬剤を選択しましょう。アザミウマの種類によって効果の高い薬剤が異なります。表を参考にしてください。

| アザミウマの種類 | 薬剤名 | 使用基準(収穫前日数) |
|-------------------------------|-------------|-------------|
| ミカンキイロアザミウマ (体の色が黄色っぽく大きめ) | ダズバン DF | 14 日前まで |
| | スピノエースフロアブル | 7 日前まで |
| | ウララ 50DF | 7 日前まで |
| | コテツフロアブル | 前日まで |
| ネギアザミウマ (体の色が黒っぽい) | スピノエースフロアブル | 7 日前まで |
| | ハチハチフロアブル | 前日まで |

○果実腐敗防止対策

果実腐敗は、果実表面の傷から病原菌が感染して発生します。このためハサミ傷をつけないことや、収穫果実を丁寧に扱うことが重要です。また、アザミウマ類の食害も腐敗につながりますので注意してください。薬剤防除は、収穫の 7～10 日前にベンレート水和剤 4,000 倍またはトップジン M 水和剤 2,000 倍のいずれかとベフラン液剤 25 2,000 倍を混用して散布してください。薬液が霧状に出るノズルで、果実を包み込むようにムラなく散布することが重要です。

<ナシ>

○黒星病

葉や果実に発生した黒星病は、周囲への伝染源となります。発病部位は必ず除去して園外で処分してください。6 月中旬まではキノンドーフロアブル 1,000 倍またはフロンサイド SC 2,000 倍等で輪紋病と同時防除します。6 月下旬は収穫期に発生する黒星病の発病を抑えるうえで非常に重要な時期ですので、発生の有無にかかわらずスコア顆粒水和剤 4,000 倍またはアンビルフロアブル 1,000 倍をムラのないように散布しましょう。

○ニセナシサビダニ

6月は増殖時期にあたりますので、ダニトロンフロアブル 2,000 倍またはハチハチフロアブル 2,000 倍等を散布して下さい。

<ブドウ>

○袋かけ前の防除

晩腐病対策として、ベンレート水和剤 2,000 倍を散布して下さい。また、チャノキイロアザミウマ対策として、アディオンフロアブル 1,500 倍を散布して下さい。

○袋かけの注意点

摘粒後はできるだけ早く袋かけを行いましょう。ただし、降雨後など果房が濡れた状態で袋かけを行うと晩腐病の感染を助長しますので、果房が乾いてから袋かけ作業を行ってください。また、袋の止め口が緩いと雨滴とともに病原菌が袋内に流入しますので、止め口はしっかりと締めてください。止め口をきつく締めた場合でも、上の方が緩く、漏斗状になっていると水滴が溜まり袋内に流入しますので針金を止め口の上部まで回して漏斗状にならないように注意してください。

○袋かけ後の防除

袋かけ直後に、チャノキイロアザミウマ、枝膨病、べと病対策として薬剤防除を行います。チャノキイロアザミウマにはオルトラン水和剤 2,000 倍、ダントツ水溶剤 4,000 倍、アルバリン（スタークル）顆粒水溶剤 1,000 倍等のいずれかの薬剤を散布してください。枝膨病には、ストロビードライフロアブル 2,000 倍を散布してください。べと病には、ボルドー液（I C ボルドー48Q、66D）50 倍を散布してください。なお、I C ボルドーにアピオン-E1,000 倍を加用すると防除効果が向上します。

<カキ>

○炭そ病

梅雨期は主要な感染時期です。ジマンダイセン水和剤 500 倍を散布し、その後の累積降雨量が 150～200mm となれば再散布を行います。散布ムラが無いように、樹の上部にもたっぷり散布することを心がけてください。

○害虫対策

カキノヘタムシガヤフジコナカイガラムシの重要な防除時期です。スミチオン水和剤 40 1,000 倍等を散布します。十分量を丁寧に散布してください。

<キウイフルーツ>

○すす斑病

6月は葉・果実への感染防止の重要な時期です。この時期の防除が不十分な場合、多発するので、ベンレート水和剤 2,000 倍またはストロビードライフロアブル 2,000 倍等を果実だけでなく葉の表裏、棚面の上の方にある枝先にも薬液が付着するように丁寧に散布してくだ

さい。枝がだらだらと伸びているような樹で発生が多くなるため、適切な新梢管理を行ってください。

※キウイフルーツは品種によって使用できる薬剤が異なるため、暦等に従って薬剤を選択してください。